

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100095		
法人名	有限会社フレンドリーあい和		
事業所名	グループホーム ビボあいわ		
所在地	那覇市おもろまち3丁目6番3号 愛和ビル4階		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成24年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JigyvosvoCd=4790100095-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービスとはいえ、近隣にはマンションや大型商業施設・公共施設等が建ち並び、地域との関わりが希薄な現況です。入居者が安全で安心して暮らすためには、地域住民の理解・応援・連携がとても重要となります。おもろまち自治会を中心とした地域活動に積極的に参加し、ビボあいわの紹介とイベント等の案内を地域住民へ発信し、理解者・応援者が増えていくよう取り組んでいます。他には外出支援の同行やホームパーティー・家族会など入居者様ご家族様と一緒に過ごす機会を増やすよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

立地的に地域との関わりが少ない場所であるが、管理者が地域子ども会のエイサー指導を行う等地域と積極的に関わりを持っている。防災時地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議や家族会等で提案し一緒に考えていく姿勢がある。今年度防災訓練を土曜日夕方に実施することで、地域の方の参加が増えている。又、夜間の対応として緊急時歩行が困難と見られる入居者の居室に車いすを設置し対応する等の取り組みが行われている。系列法人の勉強会や地域密着サービス合同勉強会を計画し毎月行っている。職員はホーム以外の職員と関わる事で、自信や励みになっている。入居者一人ひとりの介護計画の見直しやモニタリング時期について年間計画を立て、実施している。介護計画の目標やプランの内容を個人生活記録に反映させ、ケアの中で確認する等の取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で、個々の状況に応じたその人らしい生活が送れるように、全員で理念を共有して日々実践しています。特に入居者様・ご家族様・地域との結びつきを大切に、理解者・応援者を増やす取組みに力を入れています。	理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえ作成されており、フロアーに掲示し定例会議の初めに全職員で唱和し共有している。家族会開催時に家族へ理念について説明し、一緒に地域の方への働きかけ等協力してもらえよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おもしろまち自治会に賛助会員として関わり、役員会議や祭りなどの活動に積極的に参加しています。おもしろまち子ども会にはエイサーの指導を行っています。地域交流室で近隣の保育園との交流会も行い、ホームパーティーには地域の方にも呼びかけ参加して頂いています。	管理者は、毎月行われている自治会の役員会議や勉強会、クリーン清掃に参加している。今後は、認知症の理解について勉強会を行いたいと考えている。年1回のホームパーティーは、近隣の方にチラシをポストインして呼びかける等積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会会議・民生員会議・イベント等の参加機会に、ビボあいわの存在と認知症の方への理解・応援を呼びかけています。近隣マンション・店舗には特に消防訓練参加を呼びかけ理解と応援を呼びかけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に開催し、取組み状況等について報告し、運営推進委員の皆様から質疑を受け、意見交換を行い、助言を頂いています。申し送りや定例会議を活用して全員で話し合い、サービスの質の向上に活かしています。	運営推進会議は、年6回定期的に開催している。会議へは家族、市担当者、地域代表等の参加はあるが、入居者の参加は無い、活動報告やヒヤリハット等の報告を行い、委員の方から、「事業所内に活気があった方がよいのでは」との意見に、昼食前に体操や歌をうたう等サービスの向上に活かしている。	運営推進会議で、入居者が意見や意向を言える機会を作り、推進会議のメンバーとして参加出来る取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には保険者担当が確実に参加しています。電話やメール直接窓口へ伺い、業務上の相談や手続き方法の指導、情報交換等を行い、またホーム内の行事等の案内や参加呼びかけを行い、協力関係を築くよう努めています。	運営推進会議以外に市担当とは、電話やメール、窓口訪問し情報交換を行っている。担当者からは法改正に伴う内容の説明や研修の情報、電動ベットの事故に関する情報提供を受ける等協力関係が築かれている。行事案内や防災訓練に参加依頼を行っているが、参加には至っていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体である法人内の全体勉強会や地域密着型サービス事業所合同勉強会、外部研修等に参加し理解を深め、「身体拘束をしない」ケアを行い、寄り添うケアを心がけています。玄関の施錠をしないケアを行っています。	職員は勉強会や研修会にて「言葉の拘束」について学び「身体拘束をしないケア」の理解を深めている。日中は玄関に鍵をかけていない。外に出かける入居者に対しては、その思いに沿って職員も一緒に散歩に出かける等の対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修を通じ理解を深め、その人らしさを尊重し、身体的・精神的にも虐待を見過ごさないように、言葉・態度にも重々注意を払っています。職員間でも注意を促し声かけを行っています。		

沖縄県(グループホーム ビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体である法人の勉強会や外部研修に参加し理解を深めています。成年後見制度を利用されている入居者様がいますので、関係機関との連携を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、不安や疑問点についても尋ね話し合い、理解・納得頂けるように心がけています。改定等についても家族会で十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの意見は日頃の会話から直接聞き、ご家族様からは運営推進会議や家族会・面会・面談時に意見を伺うようにしています。玄関入口には意見箱を設けています。その都度もしくは定例会議で、意見について話し合い改善に努め、面会時や家族会で取り組みを報告してます。	入居者とは日頃の生活の中で個別に意見や要望を聞く機会を得ている。入居者から食事について「何を食べているのか分かるようにして欲しい。」との意見に、食材の形を崩さず調理し対応している。家族に対しては、運営推進会議や面会時、家族会開催前にアンケートを活用して意見や要望を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、日々問題意識を持って業務に取組み、日頃から意見や提案を出し合い、その都度もしくは定例会議で、全員で検討・対策について話し合い実践し、運営に反映させてます。実践しての評価も行い定着化を図っています。	毎月定期的に職員全員参加のもとスタッフ会議が開催されている。職員からの意見は日頃から気づいた事を提案してもらい、おもに会議の場では提案された意見をまとめる場となっている。職員から休憩時間について意見があり、業務時間や業務内容の見直しを行い、食事時間の他に30分休憩が取れるよう改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員と面接を行い、努力や実績、勤務状況を把握し、代表者へ報告を行っています。管理者は代表者から面接を受けています。各自が向上心を持って働けるように、職場環境作り・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体である法人全体のキャリアアップ研修や新人研修、地域密着型サービス事業所での勉強会、個々のスキルに合った内容の外部研修にも参加しています。本人の目標・希望を面接等で確認し、相談をしながら部署異動・昇格も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体である法人内研修や勉強会、沖縄県グループホーム連絡会の管理者会議や研修会、その他外部研修の機会に交流を深め情報交換を行い、事業所訪問見学を通じて良いところを活用し、サービスの質の向上に努めています。		

沖縄県(グループホーム ビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前に、入居される本人の見学をすすめ、本人の要望を確認しています。早く生活に慣れて頂けるように、席の配置や言葉かけに配慮し、安心して暮らせるよう、関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス前に、困っている事・不安な事を確認しています。ご家族様と出来るだけ面談も多く行いながら、時間が取れないときには、電話連絡を通じ、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様が、必要とする備品や受診の対応など、その時々ニーズに合わせて、必要なサービスや関係機関を紹介し、不安にならない対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体は入居者であることを常に意識し、家事や日常生活動作は、入居者と職員と共同で行うよう心がけ、本人の残存機能を十分活かし、役割を担っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族様との関係を大切に、短い時間でも面会の機会を増やして頂けるよう声かけを行っています。面会時には日頃の生活の様子をお話して、関係づくりに努めています。外出支援の際には一緒に参加の呼びかけを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週1回定期的に教会へ行かれる方、週1回ご家族様とドライブや食事に出かける方、以前に通っていたデイサービス(併設)を訪ね友人・知人と会話を楽しまれる方、馴染みの美容師さんがパーマをあてに定期的に来られる方等の関係が途切れないように支援を行っています。	アセスメントや家族からの聞き取りで、地域で入居者がどのような人や場所とつながりを持っているのか把握に努めている。法事や墓参り、入居者の出身地へドライブする等家族の協力を得て支援している。以前働いていた場所までドライブに行く等馴染の関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で声をかけ合う気の合う方が、隣になるよう席の配置をしています。コーヒータンやおやつタイム・新聞読み・民謡や唱歌を合唱・健康体操を日課に取り入れ、全員が参加できるコミュニケーションの場づくりを行っています。		

沖縄県(グループホーム ビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の生活を把握するよう、電話や面会・訪問を行っています。困ったことがあれば相談に応じています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お酒が飲みたい方には夕方リビングでお出しています。花が好きな方には職員と花を観に出掛けたり、花と野菜の栽培をしています。歌が好きな方には皆さんの前で歌って頂いています。本人からの聞き取りとご家族様との面談で確認しケアプランにも載せ支援に努めています。	定例会議や申し送りの時に職員間で入居者の思いや意志を共有している。把握が困難の場合は、返事がしやすいような言葉かけを行うように努めている。朝、夕散歩をする入居者へは、体調を考え廊下を3往復行うよう支援している。朝コーヒーを飲む習慣の方に、好みのコーヒーが飲める環境を作っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当時のアセスメントや受付表、介護記録、日常生活の会話と行動観察、職員同士での情報交換(共有)で把握を行っています。不明な点はご家族様に確認しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、注意深く過ごし方を観察を行い、言動や表情・態度などを介護記録と日誌に記録し、全員が把握できるようにしています。気になる事は申し送りでも確認し情報を共有しています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人へ日頃、生活の中で困っている事や、やりたい事などの要望を尋ねたり、ご家族様から面会・面談時にニーズをお聞きしています。そしてカンファレンスで話し合い、計画に反映させています。	年間計画を立て、入居者全員毎月モニタリングし、介護計画の見直しは3ヵ月毎に行っている。本人、家族参加のもと担当者会議が行われ、変更が必要な場合は見直しを行っている。入居者一人ひとりに役割を持ってもらい計画に反映させ、日常業務の中で確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を介護記録に記入しています。職員間では記録の確認・申し送り・会議等で確認し、職員間で情報を共有しながら、実践や計画の見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様の状況に応じたニーズに合わせ、その都度で柔軟に対応しています。専門医科受診や往診、買物等の支援を行っています。			

沖縄県(グループホーム ビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	都市型資源を活用し大型スーパーで買物や新都心公園を散歩・併設のデイサービスのイベントに参加等しています。心身に刺激を与え楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望を大切に納得が得られたかかりつけ医となっています。定期受診と必要に応じて夜間往診をして頂ける体制がとられ、主治医との連携を図っています。定期受診は職員が付き添っています。	全入居者が同建物内にある協力医療機関がかかりつけ医となっている。精神科、形成外科等入居者や家族の希望の医療機関を受診している。歯科の受診、往診があり口腔ケアの方法等指導を受けている。受診ファイルノートを活用し職員間で情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回定期的に訪問して、健康チェックと情報交換を行い、体調不良やケガ・急変時等の緊急時には、連携がとれる体制になっています。看護師と主治医との連携も密に行われています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者を訪問し情報交換を行い、早期に退院ができるように相談に努めています。ここ1年の間には該当ありません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態に応じてご家族様と主治医と介護支援専門員・管理者と話し合いを行っています。事業所ができることを説明し入居者様の状態によって検討し取組んでいく方向です。医療的ケアが求められる場合は難しいことをご家族様に伝えていきます。終末期についての勉強会は、積極的に参加しています。	重度化対策、終末期対応指針案を作成し、法人内及び外部研修に参加し、支援方法についての理解を深めている。入居者及び家族の状態により家族、医療を含めたチームで検討し、個別対応を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時マニュアルに沿って対応しています。応急手当・救急救命法の研修・勉強会には積極的に参加し実践力を身につけるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様が避難できる体制づくりが重要課題で、自治会・地域住民・店舗等に応援を呼びかけ、消防訓練を年2回行っています。その他に緊急時の連絡や火災警報器の操作方法・避難誘導の部分訓練を行っています。	防火対象物立入検査が実施され良好な状態であることが確認されている。年2回の避難訓練(自主及び消防署立会)を昼、夜間想定で実施している。訓練時は地域代表や近隣店舗等の参加協力が得られている。水やレトルト食品等の2日分の備蓄がある。	今年度の避難訓練は同建物内他階での災害発生想定での訓練であった。今後事業所内での災害発生を想定した避難方法等についての訓練が望まれる。

沖縄県(グループホーム ビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度には十分注意しています。排泄時・入浴時は本人のペースに合わせ、極力同性で介助を行うようにしています。居室への出入りにも、十分注意しプライバシーの確保に努めています。	入居者一人ひとりの出来る事、得意な事を把握し、スピーチ、歌や踊りのリーダー等活躍出来るよう支援している。新聞を本人の読みたい時間にじっくり読んでもらえるような配慮がある。プライバシーを損ねるような言葉かけがないかミーティング時職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲酒・散歩・午睡・入浴時間等、本人が望む生活が送れるよう、自己決定できるよう声かけを行い、柔軟に対応しています。入居者様が気がねなく意思表示ができるように日頃から関係づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの、食事・入浴・排泄・就寝など、本人のこだわりとペースを大切に、声かけて希望に答えられるようケアプランに沿って、柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通が図れる方は、普段着・寝間着・お出かけ着も本人に選んでいた頂き、選べない方にも、服を見せて確認するよう心がけています。起床時に整容、男性は毎日髭剃りもされてます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりができること得意なことを活かして、入居者様と職員と一緒に、食事の準備・片付けを行っています。好みの食材や旬の食材を活かして、料理本等を見てメニューを決めたりして楽しめるようにしています。	食事は3食、事業所内の台所で職員が交代で調理している。「ちらし寿司が食べたい」等入居者の希望をメニューに反映させている。入居者は米とぎ、野菜の下ごしらえ、食器洗い等力を発揮している。職員は食事介助しながら同じ食事を一緒に食べている。誕生日は赤飯で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量・栄養バランスに気をつけ、嚥下困難な方にはトロミを使用し、キザミやアチピー等一人ひとりに合った形態・食べ方・食べるペースも、本人のこだわりや習慣に応じた対応し、見守りと介助を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、汚れや臭いが生じないよう一人ひとりに合った口腔ケアを行っています。義歯は夜間預かり、洗浄保管しています。必要に応じて歯科受診も行っています。		

沖縄県(グループホーム ビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は声かけを行い全員がトイレでの排泄を行っています。夜間はトイレ・ポータブルトイレ使用の方の声かけ見守り、パット交換の方の介助を個々の状況に合わせて行っています。一人ひとりの尿取パット等の検討も行いながらコストの軽減にも努めています。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は全員トイレでの排泄が出来るよう支援している。トイレのドアはきちんと閉めるよう徹底し、排泄介助時のプライバシーに配慮している。異性で介助する場合は本人の理解を得ている。夜間、睡眠を妨げず不快のない排泄介助についての検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し把握して、水分摂取量を把握し水分補給に努めています。飲食物の工夫とウォーキングや体操を行い、内服薬でのコントロールを行っています。必要に応じて主治医に相談して指示に従っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴で、一人ひとりの希望を確認して時間調整しています。湯舟も希望の対応しています。入浴拒否される方は、声かけの工夫・タイミング・担当者を替えたりして促しています。体調不良時には、清拭を行っています。	週に3回の入浴を基本としている。髭剃り等自分で出来る事は自分でしてもらう支援姿勢を大切にしている。声かけの工夫等で強い拒否の方はみられない。皮膚のデリケートな方はシャンプーを専用の物にしたり、保湿クリームの使用等個別の対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠して頂けるように、日中は散歩、軽体操やレクの参加を促しています。寝付けない方は、ホットミルクを飲まれたり、好みの音楽を聴かれたり、新聞読まれたり、本人のお話し合い相手になったりと一人ひとりのペースに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの内服薬の効能が確認できる処方箋をカルテとお薬手帳で管理し、薬が変更ある際は、必ず申し送りと記録でも情報確認しています。状態の変化がある時は看護師あるいは主治医に連絡し、指示に従っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビでスポーツ観戦・映画鑑賞、好きな歌を合唱・音楽鑑賞、テラスで花と野菜に水かけ・洗濯物干し、キッチンで調理と盛り付けなど、一人ひとりの趣味や得意なことを促し、楽しみながら役割を担っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、職員と一緒に散歩・買物の外出を行い、毎週ご家族様と教会に行かれたり、ドライブや外食なされている方もいます。日曜日は外出支援時間を設けてドライブや散歩を行っています。	日曜日は外出支援の日と設定し、近隣公園まで車イスの方も一緒に散歩に出かけたり、ペットショップや花の苗を探しにホームセンターへ出かけている。テラスでのコーヒータムで外気浴に触れ気分転換を図っている。	

沖縄県(グループホーム ビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上、金銭を自己管理できる方については、本人所持で使えるように支援しています。ご家族様と外出される時に使用されています。保管場所を決めて管理しています。その他では、入居者様と買物に出かける際に、出来る方には支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話してほしいと要望される方は、時間帯を考慮し職員でご家族様に電話かけ、お話されています。携帯電話を所持されている方は、直接ご家族と連絡取られています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明・音・温度などには不快感がないよう環境整備を行い、カウンターには装飾品や旬の食材で季節感を楽しめるように工夫しています。調理中の音や香り、洗濯物たみ等、家庭的な雰囲気心地よい生活空間が自然に作られています。	居間には少し高さの違う家庭的な食卓テーブルが配置され、テレビ前のソファはスポーツ観戦の好きな入居者のお気に入りの場所になっている。カウンターの飾りは季節感を演出している。広いテラスではプランターで野菜を育てベンチを配置し、入居者、職員の憩いの場所として利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで音楽聴きながらうたた寝したり、テレビを前に好きなスポーツやビデオを観たり、食卓テーブルを囲み気の合った方とお茶しながらお話されたり、コーヒーの飲みながら新聞読まれたり、ゆったりと過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス・ベッド・椅子等を持ち込み、大切なご家族の写真や記念品を飾り、テレビやCDデッキなどで好みの音楽等が楽しみめるように、居心地よく過ごせるように、本人とご家族様と相談して工夫しています。	居室内のほとんどの家具は、入居者の使い慣れた家具が持ち込まれ、入居者の動きを考慮し配置を工夫している。入居者は居室で新聞を読んだりテレビを見たり居心地良く過ごしている。夜間のベッド転落予防にマットレスを利用したり、センサーを活用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には本人や家族の写真を飾り目印にし、イラスト入りトイレ表示を目線の高さで貼り付け、車椅子を自操される方の通路をゆつたり幅で確保、トイレ・浴室での手摺りの活用等、安全に配慮しかつできるだけ自立した生活が送れるように支援しています。		